

会報紙

あんしん地域見守りネット ニュースレター「創刊号」

地域活動を育む

かけはし

発行：一般社団法人あんしん地域見守りネット

編集：地域連携チーム(代表 谷口 起代)
編集長：倉田 久
ライター：斎藤 正史

事務局：地域活性化センター松戸(運営：NPO法人 CoCoT)
〒271-0073 松戸市小根本 42-3 アセット松戸Ⅱ 401
TEL. 047-711-7445 FAX. 047-369-7445

～令和2年度千葉県元気高齢者の活躍サポート事業補助事業～

「見守り」をキーワードに横軸でつながる、ケアの視点を持った地域活動のかけはしに

地域連携チーム代表 谷口 起代

一般社団法人あんしん地域見守りネット(以後「あネット」)は、その前身となる「地域見守り連絡会」(二〇一三年九月発足)ができてから七年、法人格(二〇一七年三月設立)を取得して再スタートしてから三年半が経ちました。私は二〇一五年四月から定例会に参加するようになり、時に事務局を担ったり、研究者としてヒヤリングを行ったり、理事として関わったりと、様々な形で「あネット」に関わって参りました。そして、二〇一九年度に新たに「地域連携チーム」を発足した時に、「地域見守り連絡会」のスタート時からこの活動を牽引されてきた長老の方の「世代交代を」という声に大きな後押しをいただき、チームリーダーの役をお引き受けいたしました。微力ながらこれまで地域医療福祉領域で実践者・研究者として培ってきたノウハウを活かして関わっていきたく思っております。

さて、この度、「あネット」では、この「地域連携チーム」の活動の一環としてニュースレターを発行することになりました。そこで、発行に至った経緯と、ニュースレターに込めた思いをお伝えしたいと思います。「地域連携チーム」では、まず、地

縁組織の活動が先細りになる中、新たな活動者の開拓に取り組む必要性に引き合い、「見守り」をキーワードに連なるプラットフォームを構築し、交流し、課題を出し合い、励まし合い、解決を模索していくプラットフォームへ

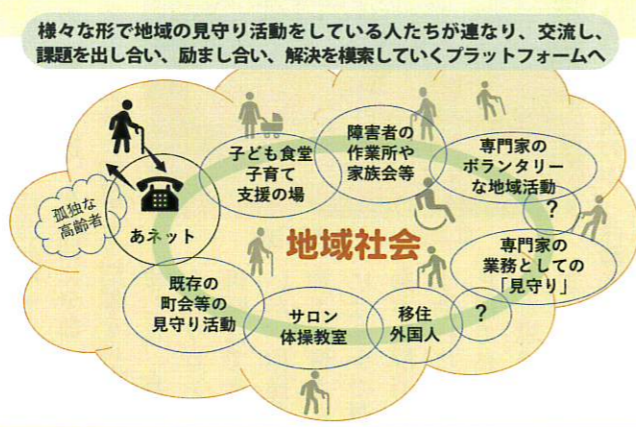
様々な形で見守り活動をしている人たちが連なり、交流し、課題を出し合い、励まし合い、解決を模索していくプラットフォームへ

地域社会

専門家のボランティアな地域活動？
専門家の業務としての「見守り」？
移住 外国人
サロン 体操教室
既存の町会等の見守り活動
あネット
子ども食堂 子育て支援の場
障害者の作業所や家族会等
孤独な高齢者

縁組織の活動が先細りになる中、新たな活動者の開拓に取り組む必要性に引き合い、「見守り」をキーワードに連なるプラットフォームを構築し、交流し、課題を出し合い、励まし合い、解決を模索していくプラットフォームへ

そして、ケアの視点を持って地域で活動する様々な領域の人たちが必要な時に即座に連携できる関係になれるような出会いの場として「交流会」を開催することに取組みました。第一回は二〇一九年十一月に開催(参加者三〇名)しましたが、その後、コロナ禍にあって交流会の開催は自粛することとなり、代替手段としてニュースレターの発行



第4回通常総会は、7月11日、無事議案が成立しました。

今回の総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止で、オンライン出席または書面表決となりました。会員の皆様に協力と激励をいただき、感謝申し上げます。

With コロナ時代に対応する訪問見守り体制の見直し、見守りのデジタル化を想定した新システムの開発と課題は多くあります。見守りシステム、地域支援者、利用者三者のつながりを強めるために、「地域連携チーム」が、会員や地域の活動報告を盛り込んだニュースレター「かけはし」の創刊に取り組みます。

に踏み切りました。創刊号では、「あネット」の活動紹介の号といたしました。今後は「あネット」の活動のみならず、「見守り」をキーワードに連なる地域活動者の紹介もしていきたいと思っております。地域連携チームには、現在、かねてから「あネット」に関わってきた、介護専門職や福祉専門職、子育て支援のNPOの代表、自治会長、高齢者福祉施設職員の五名が連なっております。活動歴も多様です。

今後も、更に多くの近しい志を持つ者と連なり、地域課題に共に対応し共にアクションを起こしていける連携を生み出していけるようになる関係づくりを、紙面を通じて取り組んで参りたいと思っております。

第4回通常総会 書面表決で開催

「あネット」の活動のみならず、「見守り」をキーワードに連なる地域活動者の紹介もしていきたいと思っております。

刊行にあたって

心配がある時は、診療所の先生が相談に応じますので、病状の悪化を防止します。二日間応答がないと訪問ボランティアが自宅を訪問、安否を確認します。更に月一回自宅を訪問し、加入者の良き相談相手になり、地域の絆を深めています。

「あネット」には、町内会や団地自治会、協力する診療所の医師たち、町づくりを進める市民運動のNPOなど多様な力に地域に古くから住む住民・高齢世代と新住民・比較的若い世代がいっしょになって取り組んできた。地域社会の絆がうすれ、その弱体化が問題になっている現在、これは住民自治の組織と運動を再生する新たな典型となりうる貴重な成果である。意見の相違を乗り越えてこの成果を守り、発展させていきたいと願っている。

幸谷町会の故樋口剛氏は、町会中心の孤独死予防活動が大切になると考え、堂垂伸治先生らが開発した「安心電話システム」を使う了解を得て、必要な国の予算も獲得した。

樋口氏は新松戸診療所を訪ねて医療機関としての協力を依頼。町会の熱意に共感した診療所はボランティアで協力することを約束した。今日まで、両町会で約七〇名が登録。町会幹部が中心になり、「安心電話」を町会全体の事業として進めてきた。

松戸市の安心電話地域も登録者も拡大、医師会も協力、市の助成金もついて順調に発展。全体的な「松戸あんしん電話地域見守り協議会」が結成され、後に社団法人化された。そんな中、事業の進め方をめぐり意見の相違も出てきた。電話登録する個人や組織の自己負担、市補助金の使い方など重要な問題については十分な説明と話し合いが望ましい。

「あネット」には、町内会や団地自治会、協力する診療所の医師たち、町づくりを進める市民運動のNPOなど多様な力に地域に古くから住む住民・高齢世代と新住民・比較的若い世代がいっしょになって取り組んできた。地域社会の絆がうすれ、その弱体化が問題になっている現在、これは住民自治の組織と運動を再生する新たな典型となりうる貴重な成果である。意見の相違を乗り越えてこの成果を守り、発展させていきたいと願っている。

地域見守り活動の歩み(第一回)

このコーナーは、見守り活動を初期から作り上げてきた方々に、寄稿いただきました。

幸谷町会があんしん電話の運用を始めたのは、平成24年3月です。それ迄の町会は防災防犯活動が主業務で、高齢者支援では、敬老の日に75歳以上の高齢者にお祝い金を贈呈する程度のものでした。当時近隣団地では高齢者の孤独死が問題になり、マスコミが大きく報じていました。更に前年3月に発生した東日本大震災では、日頃の防災への備えに加え、人と人との絆の大切さが叫ばれ、高齢者の見守りが課題になりました。この様な状況のもと町会は、将来の高齢化社会を見据え、高齢者支援対策の強化を重点課題と捉える様になり、常盤平の堂垂医院で運用中の病院と高齢者を結ぶ「あんしん電話」の導入を役員会で承認しました。

資金面は、厚生労働省の「地域支え合い体制づくり事業助成」(23年度)に新松戸東町会と共同申請、めでたく認可が下りました。提携病院探しにも苦労しましたが、新松戸診療所の三浦聡雄先生(当時所長)が快く引き受けてくれました。人材面では、当時の大竹町会長以下担当役員2名、訪問ボランティア10名(町内を5組に分け各組2名)、診療所では事務



西澤会長(中央)柳澤相談役(右)訪問ボランティア・松本さん(左)

見守りステーションから

新松戸診療所医師 三浦 聡雄

会員募集のご案内

「(一社)あんしん地域見守りネット」の目的に賛同していただける方、活動に参加していただける方、応援していただける方、お待ちしております。

正会員(団体) 5,000円(1口以上)/年
正会員(個人) 2,000円(1口以上)/年

振込口座： 千葉銀行松戸支店(普) 4277609
口座名義：一般社団法人あんしん地域見守りネット

Facebook: @anshindenwa 「あんしん電話」
E-mail: info@genkiosiete.com
http://anshind.kaiteki-it.or.jp/

編集後記

「あんしんほっとライン」では、コロナが深刻化して以降、外出の自粛や交流機会の減少により体調の悪化、不安を訴えられる高齢者が増えています。また地域活動を担う方々の活動も、三密回避、ソーシャルディスタンス確保など、ご苦労が多いと思います。このような状況のなかで、地域活動の担い手や利用者も横断的につなげる情報交換、交流の場として「かけはし」を創刊いたしました。次号以降、皆様からの情報提供、声を幅広く反映させる紙面づくりに取り組みます。応援よろしくお願ひします。

コロナ禍の中での地域活動

新型コロナウイルスの感染が広がる中で、三密を避けソーシャルディスタンスをとることが求められるなど、地域活動もあらたな課題、難問に直面しています。このコーナーでは、あんしんネット会員が携わる地域活動を中心に近況について報告します。

つながりが あったからこそ・・・

NPO法人さんま
石川 静枝

私たちの活動は、毎月一回子どもや子育て家庭の居場所として「さんま広場・さんま食堂」の開催をしています。普段はみんなで作ってワイワイがやがや食べるといふ事を大事にしているのですが、自粛時期の開催についてはとても悩みました。開催しない選択もありましたが、この状況だからこそ何かできないかと考えたのは、いつも利用してくれている親子さんに個別に連絡を取りお弁当を届けるという事でした。地元のカフェの方が活動に興味をも



って頂けていたので、協力を得て手作りのお弁当を2回届けることができました。またお弁当だけではなく寄付で頂いたお菓子、お米なども一緒に届け「元気？」などお互いに近況報告をしなから4、5月と過ごし、6月からは通常に戻りつつあります。短い時間でも顔を見て声が聞けることがこんなにも大切なことと感じた時期でした。つながりが突然切れてしまいました。緩やかではあるけど日常の何気ないつながりがあったからこそ、実現できた事だと思います。以前のような開催はまだ難しい状況ですが、やり方が一つではないことも気づかされ、同じ思いをもっている方が意外と身近にいるという事も知ることができました。

健康体操でストレス軽減

野菊野団地自治会
斎藤 正史

コロナ禍で、自治会では子ども達や高齢者の皆さんが楽しみにしていたサロン等の集まりや行事が自粛中止となり、住民の皆さんは買い物も控え気味になり、感染拡大防止に神経を使ってくたびれて来た中、自治会からの感染防止ガイドラインに合わせて、週に一回の「健康体操」を二回に分散、参加人数も少人数に制限して開催を再開しました。食事会のサロンは再開はできませんが、体操参加者の皆さんには多少の運動不足解消の手助けになった様で良かったと思います。また、自治会ではコロナ禍の中、高齢者世帯で心配事や困り事が無いか等の設問「アンケート」を実施、その集計結果をこれらの活動に生かそうと考えています。



平常時の「健康体操」

また、自治会ではコロナ禍の中、高齢者世帯で心配事や困り事が無いか等の設問「アンケート」を実施、その集計結果をこれらの活動に生かそうと考えています。

有料老人ホームでは

松戸ニッセイエデンの園
倉田 久



寄贈された絵画

感染防止の観点から、クリニック、介護居室の面会は禁止。園内の各種サークル活動、コンサート等のイベントは2月以来休止となっています。また、入居者はスポーツジムの利用も控えていただき、最寄り駅まで運行していたシャトルバスも利用できません。入居者のストレスもかなり溜まっているものと思われれます。一方、職員は日常の入居者の健康管理、介護の一方、施設内の衛生強化、消毒対応に追われています。そうした中で、入居者から感謝の気持ちを込められた絵画をいただき、職員一同の大きい励みとなりました。

あんしん電話と 見守り活動

八ヶ崎第一町会
坂田 元

「災害と要支援の関係」

大阪、神戸等の大地震による大災害、日本の地震と大津波災害、原子力発電所の災害、北海道、九州島の大水害・・・最近本当に大災害が発生し、その都度大変な思いをするのは高齢者と子供たちである。こういう状況の中、4年前、我が馬橋地区で地区長と社協の会長を兼任されていた会長が地区として災害弱者を要支援対策のポイントに、町会、自治会長、民生委員と協力し合って、町会ごとに状況確認と掌握をして活動しようと、居住地図を作ったり具体的な支援活動計画を作ったり行動することにした。年に数回状況報告や現状を話し合い、年に一回の総会でも報告されてきた。民生委員は以前から高齢者、独居の人、身体障害者、一人親世帯、生活苦の家庭の人たちを市や社協と協力してお世話している。私も町会長を23年も続けて、本格的に要支援対策を考えたのは、地区が要支援対策を始める前からです。要支援対象者として私なり25名の人を選出しました。特に独居の高齢者夫婦で月に最低一回家庭訪問し生活状況や困ったこと、病気のことなど話し相手になっていました。全ての人の急な連絡先や病院、施設等も確認済みです。一回でも回って歩くことは本当に大変でした。居なかつたり色々な事情で会えな

かつたり空回りも多々ありました。そんな時、幸谷町会の大竹会長から訪問しなくてもよい方法があると教えられ、あんしん電話を紹介されました。当初、会員があんしん電話に反対で、民生委員に頼めば松戸市が無料でつけてくれるとか耳が遠い、家にいる時間が短い、施設に行っているから無理となかなかあんしん電話を理解してくれませんでした。何度か訪問し親切に説明を続けた結果、いやいや了解し書類を書いてくれた。最初の頃は相当困ったようですが、自分の都合の良い日、時間だったので聞いてくれたようです。また見守りステーションがいっぱら診療所ということで少しずつ信頼も生まれてきました。

現在の状況は、亡くなった人 女性1名 (いちはら診療所さんのおかげで、孤独死は避けられ入院され一ヶ月後に亡くなった。) 身内の人の所に行かれた人 女性2名、施設に入所された人 男性1名、女性4名、親類に行かれた人 女性2名、重い病気の女性2名、男性1名、元気な人12名です。以上の対象者を2名の民生委員とともに見守っています。

地区の町会長に安心電話を勧めても民生委員がやることと決めつけ、なかなか理解させるのが大変だが、最近一町会長が理解してくれたので資料を配布した。一月に東京都長寿医療センター研究所(東京都老人総合研究所)の社会学博士村山陽氏と研究員が我が町会の12名の入居者を個々に約2時間ヒアリング調査され、活動の効果に納得されたようです。

ほっとラインNOW

モデルケースとのことで、私もうれしく思っています。最近では12名の人たちも電話にも慣れ自分から聞いたりして喜んでおられます。私もたまに会うと元気でうれしく思っています。町会行事も含めたくさんのボランティアをしています。元気な限り頑張りたいと思います。

あんしんほっとラインは、あんしん電話の加入受付と、地域と孤立し不安を抱えている高齢者の相談窓口として平成28年に開設されました。現在は、介護に携わっている方や見守りに取り組んでいる団体、見守りステーションの相談窓口として、また、どこに相談して良いかわからない人の橋渡しの役割も受けています。最近の対応事例をご紹介します。

◆お盆中、介護の家族から、「母と連絡が取れない。あんしん電話に入っていた。様子がわかりますか?」。母君の住所から見当をつけて見守りステーション(以降「見守りST」)の診療所に電話したが、あいにく盆休みで出ない。近隣の見守りSTにも確認したが見当たらない。確定できないが、事務局で判断をし、近くの親族が訪問する態勢を取り、万一の場合連絡がつく診療所に対応の了解を得た。約1時間後、母君の無事を確認し、「助かりました。」と報告があった。

◆お盆明け、見守りSTから、「8月始めから、利用者の電話が不応答や話し中



利用者からの贈り物

になる。引き継いだばかりで対処がわからない。「事務局で利用者データを確認し、「近所見守り」への訪問の依頼、その時点で異変があれば、地域包括支援センターに連絡する」「対応に迷ったら連絡ください。暑い時期は、迅速な対応が大切」と伝えた。後日、入院後お亡くなりになったことを見届けた近所見守りさんから報告を受けた。

◆利用者さんから、「一人暮しです。頼りにしています。手作りマスクを送ります。」と届けられました。

あんしん電話の
申し込み・お問合せは
あんしんほっとライン

0120-386-117
火・水・木 10:00~16:00